

ツツジ、滝川溪谷、矢祭山、戸津辺の桜(合併しない宣言の町、南郷の酒、ユズ、野菜、お米、もったいない図書館)。これは何だと思えますか? 珈琲香坊にいらっしやっただお客さまに「矢祭町と聞いて連想するものは何ですか?」と聞いてみたところ、こんな答えをいただきました。中には学生時代に遠足で矢祭山から水戸まで歩いたという思い出をお持ちの方もいらっしやいました。

人それぞれに、ある地名を思い浮かべると思いつくもの、こと、人があるものですね。鳥取で生まれ、就職が関東地方だった私は転勤族で、ほぼ三年ごとに各地へ引っ越しをしていました。縁があり家内の生まれ故郷のこの矢祭でコーヒー屋を開業してはや八年がたとうとしています、私が矢祭町と聞いて連想することは「田舎」です。若い人たちがイメージする田舎はたぶん、古くさくて、不便で、遊び場がな

民報 サロン

くて、お年寄りばかりでーとなるの
でしょうが、私のこの地の田舎のイメ
ージは「いい意味での田舎」です。緑
に囲まれ、農家が元気で、少し足を伸
ばせば何でも手に入る立地で、生活す
るのに十分。地元の若い方には意外か
もしれませんが、結構いけるんです
! 寝めすぎでしょうか? 事あるご

田舎の逸品

長谷川 修司



とに私は地元の若者をつかまえては
「ここを都会にしないでね」と言って
います。こういう考えが私にいつ湧い
てきたのか考えてみると、やっぱり海
外のコーヒー農園に行った経験だろ
うと思います。

生まれて初めてコスタリカのコーヒ
ー農園に行ったときは忘れられ
ない逸品、ここに来ないと手に入ら
ない、その商品を手にとったときに作
った人の気持ちまでが分かるその人、
そのお店の「田舎の逸品」、という
物がこの地にはまだまだたくさんある
のではないかと思うのです。

先日、あるお客さまが「東京で暮ら
す娘が震災時にスーパで矢祭産のお
米を見つけ、うれしくて購入したと言
っていた」と教えてくださいました。
そこには故郷への思いと、地元の生産
物に対する絶対的な安心感があったの
でしょう。

現在進行中のこの悲惨な出来事は、
何百年もかけて培われた、福島のブラ
ンドを根底からひっくり返しました。
もう一度、生産者と購入者が信頼で結
ばれた関係を取り戻すのは長い年月と
苦労が必要になるかもしれません。で
もそれができたとき、もう「風評」な
らぬものはなくなるのでしょうかね。

(矢祭町小田川、珈琲香坊店主)